

## 第2回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会

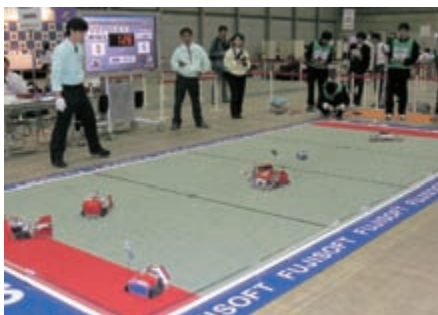
第2回高校生ロボット  
アメリカンフットボール全国大会

優勝	香川県立高松工業高等学校「稲バウアー」
準優勝	香川県立三豊工業高等学校「MITOYO」
第3位	千葉県立茂原樟陽高等学校「チーム樟陽」

第2回となる高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会が、2007年2月18日にパシフィコ横浜（神奈川県横浜市）で開催された。5人1チームで対戦する団体競技らしく、第1回大会以上にチームプレイが勝敗を分けた。第1回大会優勝の三豊工業高等学校は惜しくも準優勝に終わったが、同じ香川県代表の高松工業高等学校が第2回大会を制し、同県の層の厚さを全国に知らしめた。

「ロボマガ」記者・城井田 勝仁

ロボットアメリカンフットボール（以降「ロボフト」）は、本格的な団体競技である。数人でチームを組んで出場するロボコンは珍しくないが、ロボフトのように



ロボットそのものがチームプレイする競技はあまり例を見ない。複数機が連携して戦うロボフトでは、ロボットの性能以上に、ロボットによるチームプレイが勝敗を左右

する。ロボフトの基本ルールは明快だ。ゴールエリアへボールを持ち込むと得点になる。前半3分、後半3分の計6分間を戦い（予選リーグでは、前後半の区別なく3分間）、より多く得点したほうが勝利する。実際のアメリカンフットボールのように攻守の区別があるわけではなく、サッカーのようにいつどちらが攻め込んでも得点となる。

ボールは、楕円形のアメフト仕様のものが使われる。いったん転がってしまうと、その行く先を予測しづらいこのボールを、ロボッ



ト自身がゴールエリアへ持ち込まなければならない。ボールが転がってゴールエリアに入っただけでは得点とはならず、その場合には、あとからでもそのボールにロボットが触れる必要がある。これが、ロボフトにおける「タッチダウン」だ。

おっと、  
ファンブル！

